

ワケあり伊豆半島⑩

恩恵・水害・歴史に 思いをはせて

～狩野川の秘密に迫る～

伊豆半島を代表する狩野川(流路46km)は

天城山系に源を発し、田方平野を北上して沼津市で駿河湾に注ぎ込みます。

人々は川の恩恵を受ける一方、1965年に放水路が完成するまで、

毎年のように洪水に悩まされてきました。

狩野川が氾濫を繰り返した背景には、この地域の大地の特異な成り立ちがあります。

① 狩野川放水路

狩野川本流の流量を減らすため、伊豆の国市瀬之上(まのうえ)で分流し、駿河湾の江の浦湾に至る約3kmのバイパス水路。着工から15年かけて1965年に完成しました。途中、長岡トンネル、口野トンネルがあり、各トンネルは3本の放水路で構成されています。トンネルのサイズは幅10m、高さ11m。分流堰のゲートを開けることで、本川の計画流量のほぼ半分に相当する、毎秒2,000m³

を放流することができ、豪雨でも下流域への流量を抑えることが可能になりました。放水路は狩野川台風の雨量を想定して建設されました。完成後、同台風の規模を上回る台風が襲来していないこともあり、今のところ人的被害は発生していません。巨大な放水路を実際に見て、自然の猛威と立ち向かってきた人々の歴史に思いをはせてみませんか。



狩野川が氾濫しやすいのはなぜ？

狩野川は放水路ができるまで、毎年のように氾濫していました。氾濫しやすいわけは次のように考えられています。

- 上流の天城山系が日本有数の多雨地域であること。年間降水量は約3,000mmで東京の2倍程度にもなります。
- 通常、川幅は下流にいくにつれて広がります。ところが、約1万年前の富士山の噴火で流れ出した溶岩がせり出して、中流より川幅が狭まっているところもあります。
- 加えて、下流で合流する黄瀬川など富士・箱根山系の支川が土砂を運び込んで狩野川の川幅を狭めています。



提供:国土交通省狩野川事務所

川の恵み アユが いっぱい!

狩野川は友釣りのメッカ。鮎の魚影が濃く、5月下旬の解禁日になると、釣り人でにぎわいます。豊かな清流を活かして、特産のわさびや、伊豆市ブランド米「伊豆の恵み」が栽培されており、狩野川は人々の営みに欠かせないものとなっています。



1958年の狩野川台風の被害

1958年9月26日、伊豆半島を狩野川台風が襲いました。各地で堤防が決壊し、死者・行方不明者は850人以上、負傷者735人、全壊家屋261戸、流出家屋697戸という甚大な被害をもたらしました。このとき上流の湯ヶ島では700mm以上の総雨量がありました。なかでも旧修善寺町(現伊豆市)、旧大仁町(現伊豆の国市)の被害が大きく、一面「泥の海」になりました。



提供:国土交通省沼津河川国道事務所

モデルコース

大仁ジオ散歩

徒歩で2時間30分
大仁駅→狩野川公園
→③大仁橋→③水晶山→大仁駅

守山歴史散歩

徒歩で4時間
伊豆長岡駅→北条の里観光駐車場
→北条邸跡→⑥守山八幡宮
→⑥願成就院→観光駐車場



ガイドの
オススメ
狩野川ガイドは
俺たちにお任せ!

伊豆の国市江間、葦山、長岡ではイチゴ栽培がさかん。摘み取ったイチゴをその場で食べることもできます。

深瀬菓子舗(伊豆の国市大仁284)の**カキ氷**は80種類以上もあり、7月1日の開店日には行列ができる人気店。城山を模した和菓子もおすすめ。

注意事項

● 歩きやすい服装、靴でご参加ください。

③ 大仁橋・水晶山

明治時代に初めてここに木製の橋が架けられて以来、たびたび狩野川の洪水に見舞われ、現在の大仁橋は5代目です。大仁側(北側)の橋の付け根に1915年に完成した3代目の橋の一部が保存されています。1958年の狩野川台風では、熊坂側(南側)の取り付け道路が流失してしまいました。橋の隣の小山が水晶山です。名前の通りかつては水晶も採れました。この水晶は、地下深くの熱水の作用(熱水変質)によってできたものです。



④ 城山

狩野川沿いでひときわ存在感のある山(標高342m)です。伊豆半島が海底にあった太古に、マグマの通り道(火山の根)が冷えて固まり、その岩塊が隆起によって地表に姿を現しました。そそり立つ岩壁はロッククライミングの練習場にもなっています。



⑤ 葦山反射炉

幕末期、欧米諸国の開国要請に対抗して日本を守るために、江川太郎左衛門が築いた金属溶解炉。1857年に完成し大砲数百門を鑄造しました。耐火レンガは河津町梨本産。稼動した当時のままの姿で残っており、2015年7月に、明治日本の産業革命遺産の一つとして世界文化遺産に登録されました。お問い合わせは葦山反射炉ガイダンスセンター
Tel 055-949-3450



⑥ 守山

守山地区(伊豆の国市)は日本史ゆかりの地です。平安時代末期の1180年、源頼朝は守山八幡宮で平氏打倒を目指して挙兵しました。門前に「鎌倉幕府草創の礎はここに於いて成る」と記されています。

願成就院は、北条時政が頼朝の奥州合戦での戦勝を祈願して建立しました。木造阿彌陀如来像は鎌倉時代を代表する運慶の作。一帯の田方平野は、約7000年前には海水面の上昇(縄文海進)により、湾となっていました。その後、狩野川で運ばれた土砂で肥沃な土地ができました。



願成就院